

**MD Anderson Cancer Center (MDACC)** の高橋研究室では、癌ゲノミクス、バイオインフォマティクス、コンピュータサイエンスなどにバックグラウンドと技能をもつ研究員の方を募集しています。

当ラボは、MDACC の白血病科とゲノム医療科の両方に属し、血液悪性腫瘍患者さんから得られる豊富な臨床検体と最新のゲノミクス解析器（次世代シーケンサー、オミックス、単一細胞解析）を用いて得られた知見から、血液悪性腫瘍の病態や予後に関わる新規遺伝子・バイオマーカーの同定及びその機能解析、それらに応用した新しい診断方法、治療方法の開発を、目指して研究を行っています。PI は、米国の内科・腫瘍内科・血液内科専門医を持つ実地の臨床医であるとともに、癌ゲノミクスを専門とする研究者でもあり、臨床現場での **Unmet Needs** を満たすことを信条に研究を行っております。

主な最近の研究業績としては、治療関連性白血病の新しい発症モデルの提唱（抗がん剤治療下におけるクローン性造血の選択的増殖が治療関連性白血病を引き起こしていることの解明：**Lancet Oncology 2017, Cell Stem Cell 2018, Nature Genetics 2020**[共著]）、急性骨髄性白血病の単一細胞レベルでのクローン多様性の解明とその臨床的意義（**Genome Research 2018, Nature Communications 2020, Nature Communications 2021**）、次世代シーケンサーを用いた急性骨髄性白血病の微小残存病変の解析（**Journal of Clinical Oncology 2018, Blood 2021**）、慢性リンパ性白血病と混合形質性白血病の網羅的遺伝子解析（**Blood 2018, Nature Communications 2018**）などがあります。

ヒト検体から得られる網羅的な単一細胞レベルの遺伝子情報と臨床・疫学情報を組み合わせて、新たな知見・仮説を創出することのできるコンピューター解析に精通した研究者、また、数理的なモデル構築が可能な研究者を求めています。

また当ラボでは、年齢に関わらず、研究員のキャリアデベロップメント、グラント指導も積極的に行っており、これまで指導した日本人の若手研究員は全員、海外学振を取得することに成功しております（内二人は書類のみでの上位通過）。

もしご興味のある方は、CV を下記連絡先まで送ってください。CV に、2 – 3 人程度の推薦人のお名前を合わせてご記載ください。また、必ずしも上記の専門バックグラウンドが無くとも、血液悪性腫瘍疾患のゲノム研究に熱意のある方は、ご連絡ください。

熱意のある方の募集をお待ちしております。

高橋康一

Koichi Takahashi, MD, PhD

Associate Professor

Department of Leukemia

Department of Genomic Medicine

The University of Texas MD Anderson Cancer Center

[ktakahashi@mdanderson.org](mailto:ktakahashi@mdanderson.org)